

# 新潟県立阿賀黎明高等学校 令和8年度第1回学校運営協議会 議事録

## 1 日時

令和8年5月13日（水）10時～12時

## 2 会場

阿賀黎明高等学校 多目的ホール

## 3 参加者

委員7名

県教育委員会1名

（オブザーバー参加）

阿賀町教育委員会学校教育課職員2名

阿賀町営塾「黎明学舎」講師2名

阿賀黎明探究パートナーズ関係者5名

（事務局）

高校魅力化コーディネーター1名

阿賀黎明高等学校教職員1名

計19名

## 4 次第及び概要

### (1) 開会 校長挨拶（萱森校長）

御多用の中、委員をはじめ関係する皆様から出席していただいたことに感謝する。本校のコミュニティ・スクール指定は7年目になり、発足以来、教育活動の様々な場面や生徒募集等に対して、阿賀町の皆様から協力をいただいている。「阿賀町15年教育」においては、高校段階として本校が位置づけられており、そのおかげもあって、本校で行っている地域との連携、協働した活動は、他校と比較しても先進的な取組となっている。今年度も、連携型中高一貫校である阿賀津川中学校との連携を深めつつ、地域みらい留学生を含めた生徒全員を、社会の変化に対応できる有為な人材として輩出できるよう指導、支援していきたいと考えている。本日は、活発な意見交換をお願いしたい。

### (2) 自己紹介

### (3) 会長、副会長選出

遠藤佐委員を会長、猪俣一成委員を副会長に選出

(4) 会長挨拶（遠藤会長）

自分自身、阿賀黎明高校のコミュニティ・スクールには、7年前の発足当時から関わっている。阿賀町には、「阿賀町 15 年教育」を通して、保育園児から高校生までの年代の子どもに、阿賀町をよく知ってもらうことで、ふるさとを愛し、意欲的に学び、自ら未来を切り拓けるようになってほしいという思いがある。今年度の阿賀黎明高校の生徒は、半数以上が町外出身者であるが、地域みらい留学生は上手く地域に入り込んでくれていると感じており、今後も、町内出身者と同様に支援していきたい。阿賀黎明探究パートナーズの皆様には、これまでの活動の支援について、大変感謝している。学校の存続、魅力化のためのコミュニティ・スクールであり、引き続きの協力をお願いしたい。

(5) 阿賀黎明高等学校の状況等

① 阿賀黎明高等学校の現状と課題について（萱森校長）

- 令和 8 年度の生徒数・教職員数、年度別中学校別入学者数、卒業者の進路状況、在校生の進路希望調査結果について
- 令和 7 年度の成果（学校自己評価からの抜粋）
  - ・卒業生の多くが第 1 志望の進路先へ
  - ・遠方の保護者の行事等への積極的な参加
  - ・小・中学校との連携
- 令和 8 年度の重点目標（学校自己評価計画からの抜粋）
  - ・地域と連携した教育の一層の推進と学力の向上
  - ・主体的に学ぶ力を育成する授業実践と生徒の個に応じた指導の推進
  - ・豊かな人間性と社会性の涵養
  - ・コミュニティ・スクールとしての情報提供の充実
- 「新潟県立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」について

② 令和 8 年度の地域と連携した教育活動予定について（黎明学舎 渡邊講師）

ア 総合的な探究の時間（阿賀町さいこうプロジェクト）（主な内容）

【1 学年】「ちょこプロ」（プロジェクトの練習）、「福祉体験」、「夏休みアクション」、「ミッション型職場体験」の実施

【2 年生】1 年生の最後に立てた計画を踏まえた、プロジェクトの企画・実践

イ 学校設定教科「地域学」（主な内容）

【2 年生】地域学 A：「阿賀町の農林業の課題解決」をテーマとして、課題解決につながるアクションを 2 年間かけて実施する。特に 1 学期は、フィールドワークを通して地域の資源や課題を知る活動を行う。

【3 年生】地域学 B：「阿賀黎明高校の入学者を増やすには？」をテーマとして、10 月の黎明祭に向けてプロジェクトを進める。また、高校生として、阿賀津川中学校 1 年生のインタビュー活動に協力する。

③ 令和9年度の地域みらい留学生募集活動について（西田コーディネーター）

- 数値目標、募集活動の日程等 [ ] 内は令和8年度募集の実績数
  - ・地域みらい留学生の内定者数目標 10名 [9名]
  - ・まなび体験会 中学3年生の参加者数目標 25名 [21名]  
7月11日(土)、8月1日(土)、22日(土)、10月24日(土)の4回実施
  - ※ 例年、夏休み中に参加者が多いことから、8月の実施回数を増やした。
  - ・東京対面説明会での対応者数目標 40組 [26組]  
6月20・21日(土・日)、7月25・26日(土・日)の2回に参加
  - ※ 例年参加している6月に加えて、7月も参加することとした。
  - ・オンライン高校進学フェス・高校別説明会参加者目標のべ100名 [64名]
- 募集の方針
  - ・地域みらい留学高校紹介ページの発信情報の精査とコンテンツ(動画等)の充実
  - ・地域みらい留学希望者以外からのまなび体験会・オープンスクールへの参加動線の構築
  - ・東京対面説明会の参加者を夏休み中のまなび体験会につなげられるような説明会等の組立て
  - ・オンライン説明会は、高校進学フェス当日を中心に設計・実施し、在校生からの学校紹介や説明を積極的に聞いてもらえるよう誘導

(6) 質疑応答・意見交換

- (遠藤会長・質問) 阿賀町内の中学校では、今年度から部活動の地域展開が完全実施となったが、高等学校ではそのような動きはあるのか。教職員の働き方改革推進に係り、県から方針等は出ているのか。  
→ (萱森校長) 高等学校では、中学校の部活動の地域展開のような取組を進めるといふ話は出ていない。部活動の活動方針は、学校ごとに定めるものであるが、休養日を平日1日以上、週休日等1日以上とするよう県教育委員会から指導されている。本校でも、この指導に則って方針を定め、活動を進めている。  
(長谷川教頭) 本校で週休日に活動する部活動はボート部のみであり、今年度もボート部の顧問は6名としている。また、阿賀町のジュニアボートクラブからも協力をいただいております。現状、特定の顧問だけに過度に負担がかかるという状況はないと認識している。
- (齋藤委員・質問) ここ最近、部活動の遠征の引率の在り方、バスの手配の仕方等が話題になっているが、阿賀黎明高校では適切に対応できているか。  
→ (長谷川教頭) 本校で遠征を行う部活動はボート部のみであるが、県大会は必ず津川漕艇場が会場となるため、バス等で顧問が引率する必要はない。昨年度出場した北信越大会は長野県で実施され、借上バスを利用したが、県内の他2校と一緒に業者に委託したバスであった。

- （猪俣副会長・質問）令和7年度における生徒の活躍や卒業生の進路実績は、学校運営協議委員として誇れるものがあると感じている。一方で、今年度の入学生が8名しかいなかったことは非常に残念である。萱森校長は赴任して間もない時期ではあるが、阿賀黎明高校に勤務して感じていることや学校の課題と捉えていることを率直に教えてもらいたい。
  - （萱森校長）赴任当初は、広い校舎、校地に対して、生徒数が少ないことが大きな課題であると思っていた。しかしながら、4月7日の始業式で、人数は少ないながらも大きな声で校歌を歌う生徒の姿を見て、学校生活に向けての強い意欲を感じた。人数が少なくても、胸を張って日々の学校生活を送ってほしい。生徒数が増えた方がよいのはもちろんであるが、そのことだけに捉われすぎず、本校を選んでもくれた生徒が充実した高校生活を送れるよう力を尽くし、その中で地域に本校のよい面が伝わって、中学生から選んでもらえる学校になることを目指したい。
- （清田委員・意見）ボート部に入部した1年生を大切に育ててほしい。毎年、せっかく入部しても途中で退部してしまう生徒がいて、残念に感じている。
- （清田委員・質問）校務のICT活用はどの程度進んでいるか。AIも積極的に活用して、先生方が生徒と向き合う時間を増やしてほしい。
  - （萱森校長）本校教職員のICT活用スキルは他校に比べても高いと感じている。今年度も3科目の遠隔授業を受信し、生徒がより専門的な授業を受けることができている。また、今年度から、定期的に生徒のタブレット端末を利用した「心の健康観察」を実施することとし、授業以外でもタブレット端末等の活用が進んでいる。
    - （長谷川教頭）昨年度から教職員の業務状況を見ているが、文書作成等でAIを上手く活用できている者も一定数いる。以前は電子黒板を利用したりアプリを活用したりすることがICT活用スキルとされていたが、現在は一歩進んでいると感じる。
- （阿賀黎明探究パートナーズ 清野監事・意見）5月1日（金）に開催された探究成果発表会に参加した。発表していた生徒の取組は非常によいものであり、あの様子を小・中学生にも見せるべきであると感じた。小・中学生への公開も検討してもらいたい。
- （渡邊委員・意見）自分も4月に阿賀津川中学校に赴任したばかりであり、阿賀町の取組に刺激を受けているところである。「阿賀学」が学齢ごとに体系的に組み立てられていることに感心している。阿賀津川中学校の今年度の生徒数は78人であり、そう多くはないが、卒業生のほとんどが地元の高校を選ばず他の地域の高校に進学している状況を鑑みると、阿賀黎明高校の魅力化プロジェクトの取組が、中学生とその保護者の感覚とずれているのではないかと感じる。

- （伊藤委員・意見）他の高校に進学した生徒の保護者に話を聞くと、地元の高校に進学させるという意識を持っていないと感じる。他の高校を選んだ目的には、そんなに強いものはないが、「友達が行くから」という理由が多く、それではますます外に出て行ってしまふ。阿賀黎明高校が盛んに地域連携をしていることや、阿賀町がみらい留学制度を導入して「清川高原保養センター」に緑泉寮を作ったことについて、なぜ始まったのか、なぜやっているのかということを知者がわかっていない現状がある。もっと情報発信が必要であり、小・中学生が目的をもって阿賀黎明高校を選んでくれるように、取組を改善していく必要がある。

(7) 指導・助言（山上指導主事）

阿賀黎明高校魅力化プロジェクトについては、理念が具体的な実践として展開されており、文部科学大臣表彰の受賞からも、成果が明確に示されている点は高く評価できると考えている。その上で、今後に向けて3点申し上げる。

1点目は、教育内容の充実と体系化である。魅力化プロジェクトの理念を各教科や「総合的な探究の時間」と関連付け、「ここでしかできない学び」として整理していくことが重要である。

2点目は、広報の戦略的な強化である。現在の取組は非常に価値が高いものの、その内容や成果が十分に伝わっていない可能性もあるため、情報発信の整理や「見える化」の一層の推進が必要である。

3点目は、生徒募集の強化である。中学生が学びを体験できる機会の充実や、入学後の成長イメージを具体的に示すことにより、志願意欲を高めていくことが重要である。

これらは個別ではなく、相互に関連付けながら一体的に進めていくことが必要であり、阿賀黎明高校の取組は「社会に開かれた教育課程」の実現にも資するものであると考える。

(8) 熟議（進行：西田コーディネーター）

テーマ「選ばれる高校になるための『高校生×地域』活動の育て方」

① 「地域と連携した授業」の出口設計（地域活動へのつなげ方）や、生徒の自主的なプロジェクトをどのように育てていくか。

② 高校生が地域の方とともに本気で学び、本気で遊ぶための設計とは。

③ 1及び2で生まれたプロジェクトをどのように支援するか。

→テーマに沿って、①～③について3つのグループで熟議を行った。

→まとめ「このようなことができるのではないか」（主な意見）

- ・プロジェクトを始める前に「プレ発表会」を行い、生徒が大人から意見をもらえる機会を作るとよいのではないか。
- ・大人同士で、一人の生徒をどのように育てるか考える場を設けるとよいのではないか。

- ・大人から生徒に地域の課題を持ちかけて考えさせるケースがあってもよいのではないか。
- ・阿賀町のメニュー作り（こんな大人がいる、こんな場所がある等の紹介）をしたらよいのではないか。
- ・阿賀黎明高校に関わる大人が固定化されてきている現状がある。関係者を毎年、追加、更新していけるとよいのではないか。

#### (9) 閉会の挨拶（猪俣副会長）

年度が改まり、本協議会も委員の入れ替わりが多くあった。新しく委員が加わることで、新たな考えや知恵が出てくることはよいことである。本日の熟議のテーマについても、今後、さらにすり合わせをして、1つの方向に向かって活動を進めていきたいと考える。

